

クロスカリキュラム（英語×化学）授業メモ

(0) 授業者 三龍直子（英語科） × 谷地祐介（理科）

(1) 目的

- 英語での既習内容（既習語彙）をもとに、さらに化学の専門知識（日本語）を使って、内容を深め、英語で表現する。
- 理科での既習内容を日常生活と関連づけることで、化学物質について理解を深める。
- **科学コミュニケーション力を育む。**
科学の専門知識がない一般の人あるいは小学生が理解できる内容で説明できるようになる。

(2) 日時 令和5年3月14日（火）3限（10：40～11：30）英語のコマで
令和5年3月15日（水）4限（11：40～12：30）化学のコマで

(3) 学年・組 環境科学科2年H組（男子22名，女子14名 計36名）

(4) 場所 14日は物理教室（1棟2階），15日は化学教室（1棟2階）

(5) 単元名 英語：Lesson7（The Dark, Mysterious Universe Deep under the Ocean）
化学：脂肪族炭化水素 アルカン（有機化学），非金属元素 酸素・硫黄（無機化学）

(6) 準備物 生徒：筆記用具，1人1台PC（スマホ），英語辞書
教員：B4用紙，マジック，校務用PC

(7) 展開

[3月14日（火）]

- ① ペアワーク→説明（谷地・三龍）
 - じゃんけん → 勝ったほうがメタン，負けたほうが硫化水素について説明（三龍）
 - PPT を用いてメタンと硫化水素について，化学の授業で扱ったもしくは扱う内容を説明（谷地）
 - 英語の授業で扱った「バクテリア」や「化学合成」について確認・説明（谷地）
- ② 本時の説明（三龍）
 - グループで調査→資料作成→発表（各班3分）
 - 科学コミュニケーション力（内容は三龍がわかるように。英語は谷地がわかるように）
- ③ 調査・資料作成（谷地・三龍）→ 原則，日本語禁止

[3月15日（水）]

- ① 導入（3分）（谷地・三龍）
- ② 発表（3分×9班＝27分） オーディエンスは Evaluation Sheet を記入
- ③ 話し合い→投票（5分） → グループで1班を選ぶ！
- ④ HIMAWARI の記入（5分）
- ⑤ 結果発表 → 講評 → HIMAWARI の回収（5分）